

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172600492		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホームひまわり (第1棟 花・花)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬1795番地9		
自己評価作成日	平成23年8月29日	評価結果市町村受理日	平成23年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPubl.c.do?JCD=2172600492&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPubl.c.do?JCD=2172600492&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年10月12日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

谷汲にグループホームを開設して11年が経とうとしています。職員の定着が良く、8割の職員が3年以上勤め、その内4割の職員が10年近く働かれています。この10年余り試行錯誤しながら認知症の方々と向き合い、認知症ケアの質向上に取り組んできました。小さなホームですが、その分ご利用者様との距離は近く、和気あいあいとして賑やかなホームです。認知症となってもすべてが失われるわけではなく、その方が積み上げてきた人生があります。ご本人様の尊厳を守り、ご家族様とのより良い関係を支援します。また、地域の高齢者が認知症となっても安心して暮らせる社会づくりに地域の拠点のひとつとして各関係機関との連携を深め、地域に支援され地域に貢献できるホームとしての活動展開に努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者はお客様であるとの認識で、利用者の意見・思い・生活歴などを尊重し、それぞれの思いを実現しようとの思いで支援している。利用者との挨拶や会話を大切に、利用者が持てる力を発揮し、それぞれの個性に合わせた自信を持った暮らしが出来るように支援している。自治会の会合や地域行事に積極的に参加し、事業所の思いや認知症関連の情報を発信し、地域の人から相談を受けるなど相互の関係を深めている。重度化した場合は協力医療機関の支援を得て対応し、終末ケアにも取り組んでいる。看取りの実績も多くあり、事業所に泊まりこんで臨終に立ち会った家族もある。消防署の指導と協力の下、住民の参加も得て夜間想定避難訓練を行っており、職員の防災に対する意識も高まっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意味を深め、地域密着型サービスとしての地域における事業所の役割の認識を深めている。また、地域との関わりを深めていくことで、より良いケアの実現につなげている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を、職員全員で、具体的な言葉で新しく作り上げようとしているところである。作り直しの過程であり、理念を共有して実践していくところには至っていない。	法人の理念を更に掘り下げた、地域と密着した新たな事業所理念を管理者・職員一丸となって作り上げると共に、その理念を共有し実践につなげていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治集會に参加し、防災面での協力や行事への参加の支援を受けている。今後も更なる働きかけをおこないサービスの向上につなげたい。	自治会や地区會議に積極的に参加し、事業所の理解を深めている。学校の運動會にも他の施設の利用者と共に参加し利用者同士の交流も生まれている。地区住民の懇親會に利用者と共に参加し、農作物を頂くなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談を受け、必要に応じて他の福祉機関へつなげている。また、地域ケア會議に於いての情報発信や認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進會議を活かした取り組み 運営推進會議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	會議を通して事業所の取り組みへの理解を深めていただいている。良い情報交換の場でもあり、防災に対する地域の理解と協力はこの會議での話し合いから発展している。	行事や職員の研修報告、評価への取り組み状況・改善結果などを報告している。メンバーの尽力で防災訓練への住民の参加につなげている。しかし、利用者や家族の参加が無く、出席者も固定化されて、意見・要望が出されていない。	利用者や家族を含めた幅広い人の参加を働きかけ、意見や要望を得ながら更なるサービスの向上に活かされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア會議への参加、町の高齢福祉課との連携により発足した施設職員連絡會へ加わり、意見交換、地域との連携を深めている。また、常日頃より情報を共有できる関係を築いている。	頻繁に役所に出かけ担当者顔をあわせることで信頼を得、協力関係を築いている。地域ケア會議にも積極的に参加し、意見交換や相談の場を増やしている。町の職員が近くへ来たからと立ち寄りような関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる具体的な行為を認識し、拘束をしないことを基本としている。但し、身体の安全が損なわれるケースに於いては最低限の拘束をやむなしとする場合があり、その場合はご家族等と相談の上おこない、改善に向けての検討を随時おこなう。	椅子の座りなおしを頻繁に行ってずり落ちを防ぎ、帰宅願望のある利用者には、その思いを理解し見守りをするなど、個々に合わせた工夫で拘束をしないケアを行っている。やむをえないと判断した時は、必要最小限とし、身体拘束廃止委員会で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止關連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者の権利擁護に関する研修に職員は参加しており、虐待防止法、成年後見制度などについて勉強會をおこない理解を深めている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用するケースに対応したことはありませんが、今後、市民後見人の普及により対応を求められる機会があるかもしれません。随時対応が出来るように積極的に研修等を利用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時と通して、ホームで生活を送る上で伝えなければならない事、理解していただければならない事等の説明をおこなっている。また、個別に対応しなければならない事に関しても確認と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望に可能な限り応えられるようにカンファレンス等を通して情報の共有と対応をおこなっている。ご家族に対しては手紙や電話でご意見や要望を伺う機会を設けている。	利用者に日常的に意見を聞き、家族には面会時や毎月送付の「ひまわり通信」以外に電話や手紙で月に2度は意見・要望を尋ねている。ホームページを活用して遠方にいる家族からも要望をうかがう機会を設け、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営報告会議があり、意見や提案等を検討する機会が設けられている。提案に関しては順次対応していただいている。	管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、職員も積極的に提案している。図書スペースや車椅子移動のための通路の確保、すだれの取り付けといった要望が出され検討し取り入れられるなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすい職場であるように常に気を配り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は研修受講に積極的な姿勢があり、事業所ごとに外部研修受講を推進している。また、資格保持者も順次増えてきており、ケアの質向上に向けた職員の積極的な取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の施設連絡会を通じて他の法人との交流、研修をおこない、地域全体の質向上に取り組んでいる。また県GH協議会にも加入しており、研修、情報交換を定期的におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入により、本人、家族がより良い関係を維持することが出来るように支援します。本人にとって不安や納得のいかない事が出てくることもあります。職員は「本人を知る」ことに努め対応をおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入までのご家族の想いに共感しつつ、今後のご家族の在り方や対応についての相談をおこない、双方にとって良い協働体制が築けるように話をすすめていく。特に初期の対応は重要と捉えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に即対応出来ないケースがありますので、緊急を要する場合は他のサービス事業者へつなげる支援をおこなう。相談、見学等は随時対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が専門性を発揮しなければならない場面、共に過ごす中で生きることの奥深さを学ばせていただく場面、介護する側の一線はありますが、毎日が発見と学びの連続であり、共にかけがえのない存在となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活背景やご家族の状況により、ご家族との関わりはさまざまです。来訪がなかなか出来ないご家族もあります。個々の状況を踏まえ、ご家族にしか出来ない関わりを支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前の地域との関わりを継続することは困難なケースが多い。しかし、可能であれば出来る限りの支援をおこなうと共に、新たな地域との関わりはもてるように支援に努めている。	昔から利用している理美容院へ出かける利用者への支援をしている。住み慣れた家の近辺まで行ったり、交流可能な人とは電話や手紙・年賀状などを利用する等、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを尊重している。お互いが助け合い、協力することで、それぞれの個性や特性が発揮されている。トラブルが生じた時は、職員が適切な介入をおこない、関係の調整をおこなっている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了して他のサービス等に移行する場合は、必要な情報提供をおこない、新しい環境での円滑な暮らしが送れるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活を送る中で、それぞれが気持ちよく過ごせて、想いを実現出来るように支援をおこなっている。想いを受け止め応えることは、日々思考錯誤であり、情報の共有と検討をおこなっている。学びの毎日である。	職員は常に声掛けをし、笑顔で話を聞き、一人一人の思いを把握している。困難な人には表情や目の輝きを注意深く見て思いの把握に努め、入居時に時間をかけて聞き出した生活状況等も含めて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご家族、関係機関より情報収集をおこない、本人を知ることにも努めている。また、情報の共有と更新をおこない、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の視点から出来ることの把握をおこない、その日その日の心身の状況に応じて配慮している。また、長い経過の中からみられる状態変化にも注意を払い、先を予測した対応もおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人視点の介護計画として、本人の言葉を大事にしている。定期的カンファレンスをおこない、状態に応じ臨機応変に計画の見直しをおこない、現状に即した介護計画となるように努めている。	介護計画は、本人の意向を大切に、職員の気づきをミーティングで確認し、家族の意見も取り入れながら作成している。介護計画に入っていないできなかったり、状態が変化したり等の現状に即した介護計画になるよう短期間で変更することも多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の状態が把握できる個別記録簿となっている。記録はモニタリングに活用されている。しかし、気づきや変化の共有は出来ているが、文章化して記録することは、まだ工夫と向上の余地があるように思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況等に合わせ、本人を支えるという視点から柔軟に対応している。また、地域の認知症拠点として外部の相談、情報提供もおこなっている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、福祉事務所、近隣の福祉施設・病院等との連携、運営推進会議を通じた地域との連携から、多様な個人のニーズに応えられるよう協働関係構築に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診を主としていますが、本人、家族の要望により出来る限り対応と支援をおこなっている。歯科、眼科、皮膚科その他の専門医の受診に対応している。	入居時に話し合い、協力医を主治医に変更することが多い。馴染みの医師を受診するときは家族の協力を基本とするが、通院介助もしている。協力医は週に1回の訪問診療を行い、緊急時は夜中でも往診可能である。病院受診時は情報の共有のため家族と共に職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いた時は、些細な変化であっても情報を伝達し、医療職につなげる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院とは地域包括センター、福祉施設と共に連携体制を築いており、入退院について相互の情報提供が随時おこなわれている。早期回復・退院に向けて、家族、医師と協働しながら入院中も含め支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏んで本人の状態報告をおこない、その都度家族の意向を確認しながら対応している。本人にとって最良であり、家族の納得のいく終末となるように緊密に関係者と連携して取り組んでいる。	各段階で利用者や家族の希望・意向を確認し、家族・医師・看護師・職員が話し合いながら終末ケアに取り組んでいる。複数の看取りの実績があり、泊まりこんで臨終に立ち会った家族もある。管理者と職員は「後悔しないように」との思いで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、緊急時対応について定期的に訓練をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこない災害に備えている。また、地域住民にも協力の働きかけをおこない、防災訓練に参加していただき、意見やアドバイスをいただいている。	消防署の協力や指導を得て、夜間想定避難訓練を行った。訓練には地域住民の参加も得ている。職員の防災に対する意識も高まり、常に避難経路などを念頭に勤務している。3日分の食料の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性と尊厳を尊重し、気持ちに配慮したケアをおこなっている。また周囲と良好な関係づくりを支援している。	利用者が誇りに思っていること、大事にしていることを尊重しようとの思いで支援している。利用者の個性や生活歴を知って、その人にあったケアをしている。トイレ内がカーテンで仕切っただけで、プライバシーを十分には守れない作りになっている。	ハード面での構造を変えることには困難が伴うと思われるが、プライバシーが守られるような工夫・配慮をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面づくりをおこなっている。意思の表出が困難な方に対しては、思いを察することに努めている。職員の思い込みや個人の感情に流されることのないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、個々の気分や状態に応じ柔軟に対応している。食事の時間、話を聴いてほしい、夜テレビが観たい、就寝時間等に配慮。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院でのカットやパーマ、欲しい服を買いに行く、おしゃれな格好を一緒に考えてしてみたり、本人の能力と希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スペースの問題や介助を要することから職員と利用者は別々に食事を摂っている。配膳や片付けは率先して利用者がおこなってくれる場面があり、持てる能力の発揮となっている。	準備から片付けまで自分の仕事とする利用者もいる。職員と一緒に食事をし、話が弾むよう気配りしている。手作り弁当にしたり、外食に出かけたり、利用者のリクエストや家族の持参した食材を取り入れた献立を取り入れるなど、楽しい食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量、好み、食べ方、摂取時間等を把握し、必要な食事量と水分量が確保出来るように日々意識して関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後の口腔ケアを個々の能力に応じて支援しておこなっている。また、訪問歯科医療も受けており、口腔機能維持と衛生管理をおこなっていただいている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のサインの気付き、パターンの把握、不快の少ないオムツとパッドの使用の工夫など個々の能力に応じて誘導や羞恥心に配慮した対応をおこなっている。自分でトイレに行けることの重要性を認識している。	排泄状況を観察することで、布パンツに切り替えた利用者がある。利用者の態度や排尿間隔を把握することや、外部から講師を招いたおむつ講習会で学んだ本人に合わせたおむつやパッドの選択を通してトイレでの排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を記録し、便秘傾向の方に対しては、飲食物の工夫や運動を促す等の対応をおこなっている。下剤を使用している方もいるが、医師と相談しながら調整をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯、曜日は決まっている。但し、本人の希望や体調により臨機応変な対応に努めている。	入浴時間などの決まりはあるが、個々にあわせ柔軟に対応している。重度の人も職員2・3人で介助し湯船に入ってもらっている。羞恥心に配慮し、同性介助を行っている。入浴を嫌がる人は時間を変えたり清拭で対処し、自然に入浴できる雰囲気作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は個々の生活習慣を尊重した対応をおこなっている。夜間の不眠に対しては、生活習慣の改善に努め、場合によっては医師に相談して対応をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は誤薬防止の為に二人以上で確認をおこない、声を掛け合うようにしている。薬の変更があった際は、経過による変化を医師に伝えられるようにしている。必要に応じて記録も提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が職員だと思っている方、職員の教育に心をかける方、茶道教室を定期的におこなっていたりしている方、毎朝コーヒーをいれてくれる方、ニュースに詳しい方、個々の能力に応じ、力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、喫茶店、外食、散歩、花火大会、花見等、個々の意思を尊重しつつ外出する機会づくりに努めている。	散歩や買い物、喫茶店に日常的に出かけている。新たに車椅子対応の車両を購入し、喫茶店やスーパーでの買い物に出かけている。利用者は時間をかけて買い物を楽しんでいる。個人的な外出は、家族に依頼することが多いが、帰りたと言う利用者の自宅に送ることもある。	

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の所持は本人・家族の責任でお任せしている。但し、所持に不安がある方でも使いたいこと、買いたいものがあるなど、支援することで安心が得られる方に対しては家族の同意により管理しているケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に電話を取り次ぐことへの理解をとり、かけても良い時間帯や頻度等の把握をしている。本人の気持ちに配慮して取り次いでいる。また、年賀状を書くなどの支援もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中で、それぞれが如何に気持ちよく過ごすことが出来るか利用者の意見を取り入れながら工夫している。それぞれが座る位置、落ち着く場所、家具などの位置等に工夫と配慮をおこなっている。	利用者は自然の光と風が入る自分のお気に入りの場所でゆっくりと過ごしている。職員はこまめに窓を開け、日差しの強いときはすだれをつけて快適な環境となる工夫をしている。また、季節の花を飾ったり、利用者の作品を飾って楽しい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通路奥に椅子を置き、ひとりで外を眺められるようなスペースを作っている。また、個々に自分の居場所を決めておられる方も多いので、定位置として配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合わせて過ごしやすい環境となるように配慮している。	馴染みの椅子やテーブルなど持ち込み、家族写真や数珠・入浴セット等が置かれている。お気に入りのベストを掛けインテリアにしている利用者もいる。個々に合った温度調節をして居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に配慮して安全な環境整備に努めている。手すりの増設やレバー式の蛇口に変えるなど、設備面で手を加えることが可能な部分に関しては、出来る限り対応をおこない、自立動作を支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600492		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホームひまわり (第2棟 優・優)		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬1795番地9		
自己評価作成日	平成23年8月29日	評価結果市町村受理日	平成23年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/infomati.onPubli.c.do?JCD=2172600492&amp;SCD=320&amp;POD=21□□□□">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/infomati.onPubli.c.do?JCD=2172600492&amp;SCD=320&amp;POD=21□□□□</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意味を深め、地域密着型サービスとしての地域における事業所の役割の認識を深めている。また、地域との関わりを深めていくことで、より良いケアの実現につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治集会に参加し、防災面での協力や行事への参加の支援を受けている。今後も更なる働きかけをおこないサービスの向上につなげたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症相談を受け、必要に応じて他の福祉機関へつなげている。また、地域ケア会議に於いての情報発信や認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して事業所の取り組みへの理解を深めていただいている。良い情報交換の場でもあり、防災に対する地域の理解と協力はこの会議での話し合いから発展している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議への参加、町の高齢福祉課との連携により発足した施設職員連絡会へ加わり、意見交換、地域との連携を深めている。また、常日頃より情報を共有できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる具体的な行為を認識し、拘束をしないことを基本としている。但し、身体の安全が損なわれるケースに於いては最低限の拘束をやむなしとする場合があり、その場合はご家族等と相談の上おこない、改善に向けての検討を随時おこなう。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者の権利擁護に関する研修に職員は参加しており、虐待防止法、成年後見制度などについて勉強会をおこない理解を深めている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用するケースに対応したことはありませんが、今後、市民後見人の普及により対応を求められる機会があるかもしれません。随時対応が出来るように積極的に研修等を利用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時と通して、ホームで生活を送る上で伝えなければならない事、理解していただければならない事等の説明をおこなっている。また、個別に対応しなければならない事に関しても確認と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望に可能な限り応えられるようにカンファレンス等を通して情報の共有と対応をおこなっている。ご家族に対しては手紙や電話でご意見や要望を伺う機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営報告会議があり、意見や提案等を検討する機会が設けられている。提案に関しては順次対応していただいている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすい職場であるように常に気を配り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は研修受講に積極的な姿勢があり、事業所ごとに外部研修受講を推進している。また、資格保持者も順次増えてきており、ケアの質向上に向けた職員の積極的な取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の施設連絡会を通じて他の法人との交流、研修をおこない、地域全体の質向上に取り組んでいる。また県GH協議会にも加入しており、研修、情報交換を定期的におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入により、本人、家族がより良い関係を維持することが出来るように支援します。本人にとって不安や納得のいかない事が出てくることもあります。職員は「本人を知る」ことに努め対応をおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入までのご家族の想いに共感しつつ、今後のご家族の在り方や対応についての相談をおこない、双方にとって良い協働体制が築けるように話をすすめていく。特に初期の対応は重要と捉えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に即対応出来ないケースがありますので、緊急を要する場合は他のサービス事業者へつなげる支援をおこなう。相談、見学等は随時対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が専門性を発揮しなければならない場面、共に過ごす中で生きることの奥深さを学ばせていただく場面、介護する側の一線はありますが、毎日が発見と学びの連続であり、共にかけがえのない存在となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活背景やご家族の状況により、ご家族との関わりはさまざまです。来訪がなかなか出来ないご家族もあります。個々の状況を踏まえ、ご家族にしか出来ない関わりを支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前の地域との関わりを継続することは困難なケースが多い。しかし、可能であれば出来る限りの支援をおこなうと共に、新たな地域との関わりはもてるように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを尊重している。お互いが助け合い、協力することで、それぞれの個性や特性が発揮されている。トラブルが生じた時は、職員が適切な介入をおこない、関係の調整をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了して他のサービス等に移行する場合は、必要な情報提供をおこない、新しい環境での円滑な暮らしが送れるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活を送る中で、それぞれが気持ちよく過ごせて、想いを実現出来るように支援をおこなっている。想いを受け止め応えることは、日々思考錯誤であり、情報の共有と検討をおこなっている。学びの毎日である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご家族、関係機関より情報収集をおこない、本人を知ることに努めている。また、情報の共有と更新をおこない、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の視点から出来ることの把握をおこない、その日その日の心身の状況に応じて配慮している。また、長い経過の中からみられる状態変化にも注意を払い、先を予測した対応もおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人視点の介護計画として、本人の言葉を大事にしている。定期的カンファレンスをおこない、状態に応じ臨機応変に計画の見直しをおこない、現状に即した介護計画となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の状態が把握できる個別記録簿となっている。記録はモニタリングに活用されている。しかし、気づきや変化の共有は出来ているが、文章化して記録することは、まだ工夫と向上の余地があるように思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況等に合わせ、本人を支えるという視点から柔軟に対応している。また、地域の認知症拠点として外部の相談、情報提供もおこなっている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、福祉事務所、近隣の福祉施設・病院等との連携、運営推進会議を通じた地域との連携から、多様な個人のニーズに応えられるように協働関係構築に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診を主としていますが、本人、家族の要望により出来る限り対応と支援をおこなっている。歯科、眼科、皮膚科その他の専門医の受診に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いた時は、些細な変化であっても情報を伝達し、医療職につなげる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院とは地域包括センター、福祉施設と共に連携体制を築いており、入退院について相互の情報提供が随時おこなわれている。早期回復・退院に向けて、家族、医師と協働しながら入院中も含め支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏んで本人の状態報告をおこない、その都度家族の意向を確認しながら対応している。本人にとって最良であり、家族の納得のいく終末となるように緊密に関係者と連携して取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、緊急時対応について定期的に訓練をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこない災害に備えている。また、地域住民にも協力の働きかけをおこない、防災訓練に参加していただき、意見やアドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性と尊厳を尊重し、気持ちに配慮したケアをおこなっている。また周囲と良好な関係づくりを支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面づくりをおこなっている。意思の表出が困難な方に対しては、思いを察することに努めている。職員の思い込みや個人の感情に流されることのないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、個々の気分や状態に応じ柔軟に対応している。食事の時間、話を聴いてほしい、夜テレビが観たい、就寝時間等に配慮。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院でのカットやパーマ、欲しい服を買いに行く、おしゃれな格好を一緒に考えてしてみたり、本人の能力と希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スペースの問題や介助を要することから職員と利用者は別々に食事を摂っている。配膳や片付けは率先して利用者がおこなってくれる場面があり、持てる能力の発揮となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量、好み、食べ方、摂取時間等を把握し、必要な食事量と水分量が確保出来るように日々意識して関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後と夕食後の口腔ケアを個々の能力に応じて支援しておこなっている。また、訪問歯科医療も受けており、口腔機能維持と衛生管理をおこなっていただいている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のサインの気付き、パターンの把握、不快の少ないオムツとパッドの使用の工夫など個々の能力に応じて誘導や羞恥心に配慮した対応をおこなっている。自分でトイレに行けることの重要性を認識している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を記録し、便秘傾向の方に対しては、飲食物の工夫や運動を促す等の対応をおこなっている。下剤を使用している方もいるが、医師と相談しながら調整をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯、曜日は決まっている。但し、本人の希望や体調により臨機応変な対応に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は個々の生活習慣を尊重した対応をおこなっている。夜間の不眠に対しては、生活習慣の改善に努め、場合によっては医師に相談して対応をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は誤薬防止の為に二人以上で確認をおこない、声を掛け合うようにしている。薬の変更があった際は、経過による変化を医師に伝えられるようにしている。必要に応じて記録も提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が職員だと思っている方、職員の教育に心をかける方、茶道教室を定期的におこなっていただいている方、毎朝コーヒーをいれてくれる方、ニュースに詳しい方、個々の能力に応じ、力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、喫茶店、外食、散歩、花火大会、花見等、個々の意思を尊重しつつ外出する機会づくりに努めている。		

グループホームひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の所持は本人・家族の責任でお任せしている。但し、所持に不安がある方でも使いたいこと、買いたいものがあるなど、支援することで安心が得られる方に対しては家族の同意により管理しているケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に電話を取り次ぐことへの理解をとり、かけても良い時間帯や頻度等の把握をしている。本人の気持ちに配慮して取り次いでいる。また、年賀状を書くなどの支援もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中で、それぞれが如何に気持ちよく過ごすことが出来るか利用者の意見を取り入れながら工夫している。それぞれが座る位置、落ち着く場所、家具などの位置等に工夫と配慮をおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通路奥に椅子を置き、ひとりで外を眺められるようなスペースを作っている。また、個々に自分の居場所を決めておられる方も多いので、定位置として配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合わせて過ごしやすい環境となるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に配慮して安全な環境整備に努めている。手すりの増設やレバー式の蛇口に変えるなど、設備面で手を加えることが可能な部分に関しては、出来る限り対応をおこない、自立動作を支援している。		